

# OPINION

## 中部経済新聞

スペイン内戦下、パリでメキシコ総領事を務めたボスケスは以下のように続けます。  
ドイツ、オーストリア、イタリアの政治家に対する迫害や嫌がらせは非常に深刻で、彼らのために特別な方法で対応する必要がありました。速

### 「ナチゲーター」

捕されないよう写真付きの書類を用意するため、スペイン人女性カメラマンと専用機材を確保していました。難民を脱出させるために、ときには深夜に撮影し、写真を補正し、別の名前を与えました。  
ドイツに強制送還される予

47

## 日本への期待 世界各地から

# 命がけで難民救ったボスケス

定の人を、強制収容所から助け出したこともあります。ドイツの著名人や反戦活動家、とくに最も迫害されていたのが共産党の人たちで、彼らには警察やスパイが目をつけられていました。共産主義者の送還リストを提出するよう依頼されても、政治的な偏見にとられず、そういった人々を助けなければならぬ、と関係者は理解していました。

### メキシコ、亡命の地

1991年、最後のインタビューでヒルベルト・ボスケス自身が語ったこれらの出来事は、時に忘れられがちですが、人類の歴史を変えた歴史の一幕を、現在に生きる私たちに思い起こさせてくれます。メキシコに脱出できたスペイン共和国人や、ボスケスがフランスからの出国を手助けた人たちの正確な数は不明ですが、4万人から5万人程度と推定されています。

メキシコは、独立時以前から亡命受け入れ国であり、例えば南米の革命家シモン・ボリバルは、スペイン統治下の独立前のメキシコに滞在して

メキシコは、独立時以前から亡命受け入れ国であり、例えば南米の革命家シモン・ボリバルは、スペイン統治下の独立前のメキシコに滞在して

メキシコは、独立時以前から亡命受け入れ国であり、例えば南米の革命家シモン・ボリバルは、スペイン統治下の独立前のメキシコに滞在して

メキシコは、独立時以前から亡命受け入れ国であり、例えば南米の革命家シモン・ボリバルは、スペイン統治下の独立前のメキシコに滞在して

メキシコは、独立時以前から亡命受け入れ国であり、例えば南米の革命家シモン・ボリバルは、スペイン統治下の独立前のメキシコに滞在して

（月曜日に掲載）